

芸術療法演習

専門教育科目／4単位／TS授業

担当教員	安原 青児（テキスト部分担当）	※スクーリング部分については、複数の教員により行う。
■使用テキスト	安原青児著『福祉のための芸術療法の考えかた—絵画療法を中心に—』大学教育出版社	
◆参考テキスト	関則雄・三脇康生・井上リサ・編集部(編)『アート×セラピー潮流』フィルムアート社	

講義概要・一般目標

芸術療法とは、芸術を媒介とする様々な治療手段を総称している。芸術とは自由な自己表現、自由な共感、異なる価値観の尊重など、人間的感受性に立脚している。従って治療としての芸術もまた、治療専門職である医療関係者や芸術の様々な分野の専門家（芸術家）の独占物ではなく、もっと一般の人たちの間にあって自己理解、相互理解に役立ち、自己の内界と外界との豊かな交流の中で治療へと導かれる広義の意味を持っている。本演習はこのような、いわばホリスティックな視点に立ち、社会福祉士や認定心理士を目指す学生が、福祉の現場に出たとき、芸術療法を広く活かしていくことができるよう、その理論や技法を習得する。なお芸術療法の諸領域は今日その広がりから、絵画や視覚的アートのみならず、ダンス、ムーブメント、演劇、声（発声・歌唱）、演奏、文芸（詩・短歌・俳句や文章の創作）、華道、茶道、写真…等々、様々な媒体があり、それらを用いた自己表現によって病気治療はもとより、心身の開放、癒し、自己の可能性への信頼、創造性の開花等を目指すものでもある。テキスト部分ではそれら膨大な領域から絵画・造形療法を中心に学習する。なおスクーリング部分では複数の担当教員の専門領域によって、取り扱う演習内容が異なることを付け加えておきたい。

到達目標

- 1)治療としての芸術の概念とその役割について説明できる。
- 2)芸術的表現と治療との関係について説明できる。
- 3)描画発達段階の系統的理解と、描画の持つメッセージ性や読み取りの理論について説明できる。
- 4)芸術療法で扱われる色彩や形態の解釈について理解し、それを説明できる。
- 5)芸術療法とスピリチュアルケアとの関係を理解し、環境芸術を含めた全体像と自己の意見表明ができる。
- 6)様々な相互法について理解し、その治療的意味を説明できるとともに、その実際を習得する。
- 7)集団療法を体験し基礎理論を説明できるとともに、自己及び他者理解ができる。
- 8)様々な個人療法を体験し基礎理論や方法を習得する。またそれらを説明できる。
- 9)芸術療法とアクティビティー、心理療法、描画テスト等の共通点と相違点について理解し説明できる。
- 10) 芸術療法を行う者が持つべき人間観、資格の問題や社会的役割について理解し説明できる。

評価方法

T部分：科目単位認定試験により評価。

S部分：出席状況（遅刻・欠席は不可）、受講態度、科目単位認定試験（スクーリング最終日に実施）。

学習指導

第1部 理論編

第1章 芸術の捉え直し

この章のポイント

本章では芸術に対する概念を振り返るとともに、現代の様々な社会的な問題が私たちの目に見えぬ精神にまで影響を及ぼしていることを確認し、それを踏まえてもう一度芸術の持つ普遍性や今日的な役割について考えることを目的とする。

第2章 療法としての芸術と表現

この章のポイント

本章では人間にとって芸術的な表現の意味について考えることが一つの目的である。また一方で治療することの本質を踏まえ、芸術表現と治療とのかかわりについても学んでいくが、これらは最終的には芸術療法とは何かという問いに行き着く。

第3章 発達的アプローチから見た児童画

この章のポイント

本章では系統的な描画発達過程の先行研究をもとに、年齢や心身の発達段階と描画との関係を見ていくことを目的とする。また描画の中に作者の思いがどのように図式化されるのかについても、例を挙げながら解説する。

第4章 色彩・形態のシンボリズム

この章のポイント

本章は絵画療法のベースとなる描画の読み取りの中で、特に描かれた色彩と形態について学んでいく。世界の民俗や風土が育んできた文化や人類史、画家たちによって描かれた色彩等々を俯瞰する中から、個別的な色彩と形態の解釈にも踏み込む。

第5章 芸術療法に求められるスピリチュアルケアの側面

この章のポイント

唯物的な色彩の強い現代社会にあって、スピリチュアリズムの持つ意味は大きい。本章では芸術療法とスピリチュアルケアの関係、精神に働きかける環境の問題などを取上げる。

第2部 実践編

第6章 初期的導入としての技法

この章のポイント

本章では、まず治療の導入に際して必要な条件、環境設定などをおさえる。また初期的導入にふさわしい技法の紹介と、実践の際の手順、教示、必要な用具等について解説する。

第7章 色彩療法

この章のポイント

本章では主として水彩を使った絵画療法の技法についてその手順、教示、用具、作品の生かし方と整理、治療項目などについて詳細に解説し、色彩が働きかける治療的意味について考えることを目的とする。

第8章 触覚に刺激を与える技法

この章のポイント

本章は触覚の意味と役割について解説し、その治療的側面から造形療法として用いられるフィンガーペインティング、粘土遊び法についてまとめる。体験を踏まえた上で触覚刺激の治療的意味について考えよう。

第9章 相互関係の中で扱われる技法

この章のポイント

芸術療法にはクライアント個人が体験するばかりでなく、セラピストや周囲の人間と相互に行う技法が存在する。本章ではそのような互いの力動的な側面に焦点をあて、スクィグルや色彩分割の技法などを学んでいく。

第10章 コラージュの技法

この章のポイント

本章ではまず始めに、コラージュ技法の美術史的背景とそれが治療の中に取り入れられた歴史的背景について学習する。その後、コラージュの臨床的応用に際して必要な方法と治療的な特徴についてまとめる。

第11章 自然を取り入れた造形技法

この章のポイント

生命の源である太陽光（自然光）を取り入れた造形技法と、自然物の中でも色彩・形態の治療的働きかけが期待できる草花を用いた技法の紹介をする。私たちにとって理想形態とは何か、それは心身にどのような作用を及ぼすのかなどについて考える。

第12章 心理療法の中の様々な技法の発展

この章のポイント

本章では心理療法の歴史と特質について基礎的なまとめを行い、その上で臨床の場で開発・発展されてきた様々な技法について解説を行う。また描画療法と描画テストとの相違についても論じている。

第13章 関係性の中から一集団絵画療法

この章のポイント

芸術療法における集団療法の理論と実際の技法を取上げて解説する。グループワークの力動的な側面から治療構造、また具体例として KJ 法を用いた技法と自然物造形法の二つを紹介し、その実践に際して必要な事項をまとめている。

第14章 様々な分野の芸術療法

この章のポイント

本書では絵画・造形療法を主として論じているが、本章ではそれ以外の様々な分野から、特に音楽療法、文芸療法、心理劇、舞踏療法を取上げて入門的な解説を試みる。ここでは、芸術療法の持つ広がりや共通点、身近さを感じ取って欲しい。

終章 芸術療法士（アートセラピスト）とは誰か

この章のポイント

本書全体に通底するのは芸術療法に必要な人間観・世界観の理解である。その獲得に向け、自己への問いかけの必要性やクライアントとの関係、健康観などを学ぶ。またセラピストの資格と社会的課題について現状を踏まえて解説し、全体のまとめとする。